

宗像市長 谷井博美様  
宗像市議会議員 田中時宗様

宗像市監査委員 岩本隆志  
宗像市監査委員 石松和敏

定期監査（工事監査）の結果について（報告）

地方自治法第199条第4項の規定による定期監査（工事監査）を実施したので、同条第9項の規定により、その結果について下記のとおり報告する。

記

1 監査の概要

(1) 監査委員 岩本隆志 石松和敏

(2) 監査実施期日 平成23年11月17日（木）

(3) 監査対象工事の概要

ア 工事件名

宗像市郷土文化学習交流施設整備工事（建築工事）

イ 工事担当課

市民協働・環境部 郷土文化学習交流室（都市建設部 建築課へ業務依頼）

ウ 事業の概要

旧宗像市、旧玄海町及び旧大島村の合併による施設統廃合の一環として、旧玄海町にある宗像市玄海文化センター（アクシス玄海）を、郷土文化学習交流施設として改修するもの。

エ 工事内容

敷地面積：11,082.02㎡

構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上3階地下1階

整備延べ面積：2,300.90㎡

うち増築延べ面積33.19㎡、鉄骨造平屋建て

主な整備居室等：風除室、ホール、体験学習室、展示室、重文展示室、シアター室、収蔵室、埋文作業室ほか

主な仕上げ：床；長尺ビニールシート、タイルカーペット

壁；せっこうボードの上塗装仕上げ

天井；せっこうボードの上塗装仕上げ、岩綿吸音板

外壁；弾性アクリルリシン吹付

電気設備：照明設備、コンセント設備、床暖房設備ほか

オ 工事請負会社

株式会社日新建設（宗像市田熊）

カ 設計者（委託）

株式会社丹青社（東京都台東区上野）

キ 工事監理（委託）

株式会社安井建築設計事務所 九州事務所（福岡市博多区博多駅前）

ク 請負金額

142,800,000円

- ケ 契約年月日  
平成23年8月18日
- コ 工期  
平成23年8月19日～平成24年1月13日
- サ 工事進捗率  
約40%（平成23年11月17日現在：作業ベース）

## 2 監査の方法

事前に対象工事の関係書類の提出を求め予備監査するとともに、当該工事の仕様書等に基づき、計画概要・設計方針・積算根拠・施工方法・工事監理等について担当者等から説明を受け、設計図書その他関係書類等では表示されていない当該工事の状況を質疑応答によって把握することに努めた。

引き続き、工事担当者等に同行し、施工現場を踏査して、施工状況及び安全管理状況を精査するとともに、施工業者から施工状況・施工管理状況等についてのヒアリング調査を実施した。

また、技術的な面の調査については「特定非営利活動法人 西日本建設技術ネット」に委託した。

## 3 監査等の結果

### (1) 技術調査結果

#### ア 結果の総評

当該工事の事業計画、設計、積算、工事発注及び施工の各段階における技術的事項について、担当部署及び監督員の説明に基づき内容を調査し、市民が公共工事に求める品質、コスト、工期の“需要の三要素”で評価すると、①品質については、工事目的物である既設建築物の改修工事は現在工事途中であるが、現場調査の結果では不具合などは確認されていない。②コストについては、工事金額は当初金額から多少変更増になる見込みということであった。③工期については、当初の1月13日を2月10日に延長する予定であり、その工期内に完成する見込みであるとのことであった。当該工事は、品質、コスト、工期に問題点は認められない。

#### イ 工事発注までに關する事項

##### (ア) 事業について

旧宗像市、旧玄海町及び旧大島村の合併による施設統廃合の一環として、旧玄海町にある宗像市玄海文化センター（アクシス玄海）を、郷土文化学習交流施設として改修するものである。

##### (イ) 設計について

基本構想計画策定業務、実施設計業務は入札によって業者を選定し、設計意図伝達業務は随意契約したものである。設計の内容は適正といえる。

##### (ウ) 積算について

設計事務所で直接工事費を積上げ、役所で経費を入れて設計金額としている。単価には、①物価版によるものはそのままの金額とし、②特殊単価については3者から見積書を徴し、合計金額の安い一者の単価に低減率0.6～0.8を掛けている、③施工単価については「建築コスト情報」や「建築施工単価」を採用している。適正な積算といえる。

##### (エ) 入札について

入札は条件付き一般競争入札で行われており、予定金額に対する落札金額の割合は、97.8%である。

#### ウ 工事着工後に關する事項

##### (ア) 着手前の書類について

A 現場代理人の資格書類（要求資格証明書など）、同現場担当者の技術者届の提出を確認した。

- B 契約書、誓約書、工程表、着工届、保険契約書、産業廃棄物処理業者許可書を確認した。
- C 下請契約報告書の提出を確認した。
- D 総合仮設工事計画書、解体計画書、日報、月報、協議書、打合せ議事録、安全計画書、施工体制台帳、着工前写真簿を確認した。
- E 下請業者一覧表、施工体制表（業者名、組織図）、技能士届等の書類を確認した。
- F コンクリート配合計画書を確認した。

(イ) 施工管理について

- A 他の配合報告書、骨材試験成績書、海砂の塩分濃度管理表、試験成績表、納品伝票、施工計画書、施工結果報告書については、工事途中でもあり、現在は最終報告書を取りまとめ中であった。
- B 鉄筋工事では、工事数量が少量であるが、公共工事であるので、鋼材検査証明書（ミルシート）、出荷証明書、試験成績書を竣工時まで提出する予定であることを確認した。
- C 防水工事では、防水工事施工計画書は作成されていた。ただ、防水保証書、水張り試験結果報告書は工事中であり、工事終了時に提出する予定であることを確認した。
- D 塗装工事では、現在工事準備中であり未施工であるが、安全衛生上の問題も大きいことから、事前に施工計画、使用数量計算書、出荷証明書を作成し、提出承認を受ける予定であることを確認した。
- E 工事の進捗に伴っての段階確認は、工事監理者が立会いで確認や検査を実施し、その記録として工事写真を撮影していることを確認した。
- F 工事途中の現場を見る限りでは、問題のない施工管理が行われていると判断できる。

(ウ) 安全管理について

- A 敷地南側工事空地に塗料、接着溶剤が集積されており、夜間は盗難なども懸念されるので、養生をすることが適切であると考ええる。
- B 南面と東面の仮囲いはロープのみであり十分とはいえない。ビティ足場と防音シートに変更するなど改善の必要がある。

(エ) 工事監理について

- A 株式会社安井建築設計事務所九州事務所に工事監理を委託している。常駐ではないが“重点監理”という形態をとっている。
- B 定例会議（毎週）では、市役所（郷土文化学習交流室及び建築課）と工事監理会社及び請負会社（建築、機械、展示）が一堂に会して、工程調整などの意思決定を行いながら進めている。
- C 市の上部的（監修）組織として、文化庁、九州大学教授が関わる委員会がコーディネートしている。
- D 監理報告書を毎月市に提出しており、その中では工事の進捗や確認済み工種が明確になっている。
- E 工事監理者が現場での機能を十分に果たしていることが認められた。

エ よりよい建築物への提案

- (ア) 展示室の天井が非常に高いので、冬季に天井部に暖気が溜まり、下部が暖まらないことが考えられる。天井面にプロペラファンをつけるなどして、下流に暖気を押下げる対策を施したほうがよいと考える。
- (イ) 展示室の床はホールより70mm程度高くなっているため、利用者がつまづく恐れがある。踏み込みを大きくする、スロープを緩やかにする等の検討が必要ではないかと考える。
- (ウ) 敷地南側道路際に、緑地帯を設け、施設前面に潤いを演出する。
- (エ) 東側歩道に歩行者と利用者の安全確保のため、ガードレールを設けることが求められる。

## (2) 監査の結果

技術調査結果で述べたように、当該工事については、大幅な工事金額の増加や工期の延長は発生しておらず、順調に進捗していることが認められる。

施設の完成に向けては、文化庁、九州大学教授が関わる委員会、宗像市、工事監理者及び請負者と非常に多くの組織や人々が関わっている点から、それぞれを一つの建築物に集約収束していくことが重要である。工事監理者にそれらの情報や意見を集約して、とりまとめさせることが必要である。

施設の完成後は、学芸員等の人材を有効に活用して、世界遺産登録活動の拠点としての役割をはじめ、宗像市内だけでなく、広く市外からも集客できる文化情報発信基地として運営されることを期待する。